

令和5年度 校内研究について

1 校内研究全体テーマ

子どもの学びがにつながる授業づくりを目指して

2 今年度の研究について

令和2年度から3年間「生き生きと学ぶ子どもの姿を目指して」のテーマのもと、子どもの姿を中心に授業改善を行い、授業づくりを行ってきた。令和4年度の研究の成果として、子どもの姿を追うことで、子どもの文脈(思い・行動)に気付くことができたとの意見が多くあった。課題の設定や支援の方法、教材や授業展開の工夫など授業改善の工夫や配慮等が実践に活かされてきている。

令和5年度からは「子どもの学びがにつながる授業づくり」をテーマとして、子どもの気付きや理解が次の学びへどうつなげていくのかを話し合い、学びがにつながる授業をどのように作っていくとよいかを考えて授業改善を行っていきたい。また、小中高の教育課程ごとのグループを編成することで、授業づくりを行う上で学部を超えた縦の学びのつながりを話し合い、長期的な視点で子どもの学びのつながりを考える機会にしたい。ただし、これまでの子どもの姿を中心に授業改善を行い、授業づくりを行っていく方法は継続していく。子どもの学びがどのようにつながっていくかを教師が知ることで、子どもの主体的、対話的で深い学びの実現に近づくとと思われる。

3 研究の進め方

年間通して、授業者・グループ(MT、ST含む)を固定する。参観者は、授業者と共に授業を作る協力者とする。授業中の細かな子どもの行動記録や研究会での記録、まとめ、授業者への助言等を担う。学部グループチーフ、グループチーフ及びサブチーフを置き、グループ内の研究についての連絡・調整を行ったり、授業研究会のファシリテートを行ったりする。

(1) 全体研究会(年3回) …①研究の概要説明 ②講義・グループ演習 ③実践発表・共有等

(2) グループ別研究会(年6回)…実態把握・共有、授業づくりの話し合い、授業研究会(公開授業と授業研究会は年に2回以上は行う。)

(3) 研究のまとめ(あかり) …年度末にグループ研究のまとめを「あかり」にまとめる。